

けがややけどは侮ってはいけません。大丈夫と思って自己流で治療すると感染したり、傷跡が醜く残る。また、近年増えている高齢者の日光角化症は、がんの前の状態。早期治療で難治性の病気も治る可能性は高い。「地域のかかりつけ皮膚科医をめざす」という兵庫県西宮市の田所クリニックの田所丈嗣院長に治療の考え方を聞いた。

田所クリニック院長 田所丈嗣さん

——けがでの対応は

田所 初期治療が基本です。まず傷口をよく水で洗い流すことが大切。例えば、道路で転ぶとアスファルトの粉などが傷口に付着し、洗い流さないと粉が残ります。表皮までの浅い傷であればあまり問題はありませんが、真皮層までの傷になると細菌に感染しやすくなり、感染によって傷が深くなると傷跡が汚く残ります。次に消毒ですが、市販の消毒液は皮膚組織を痛めることがあり、最近病院では生理食塩水を多く用います。また、傷が早く治るといわれる絆創膏ばんそうこうもありま

key person

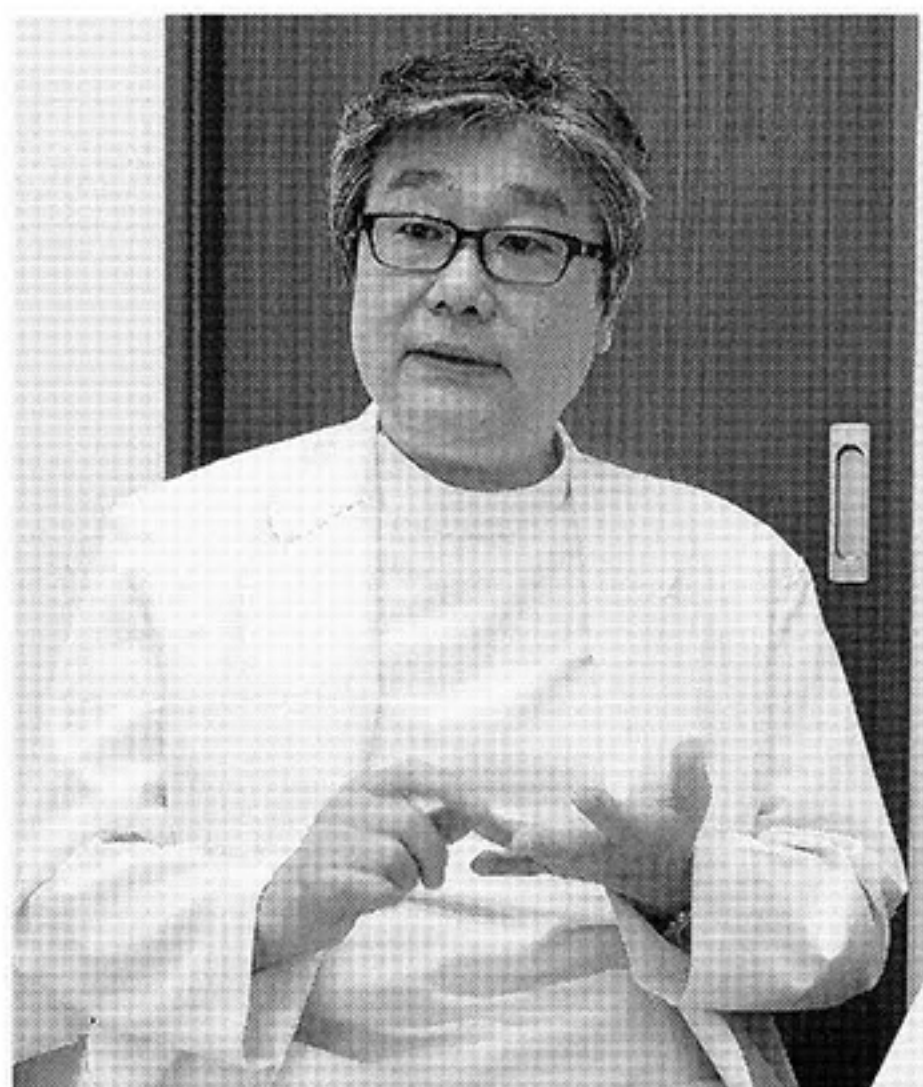
すが、傷が深ければ患部を悪化させることがあり、主治医に相談することです。

田所 ———けがの悪化の症状は赤みが出る、浸出

地域のかかりつけ皮膚科医へ

液が多い、患部が熱を持つなどです。細菌などに感染している可能性が高い。治療はこの段階では遅く、治りも遅くなります。

治療では抗生物質の軟膏が処方されますが、感染菌が抗生物質が効かない耐性菌になることがあります。最近では皮膚を再生する成長



因子を含む軟膏があり、それらを組み合わせることで治療することです。

田所 ———やけどはすぐに冷やすことです。冷やさないと皮膚の深部まで熱が伝わり、症状が悪化します。皮膚表面が赤い程度であればステロイドの軟膏で治ります。水疱

(水ぶくれ)になると治療が必要ですが、水疱の水は抜いても良いですが、水疱の蓋(皮)は傷面を保護して

田所 ———皮膚の悪性疾患は日本人に多い皮膚

がんは顔に発生しますが、まれに体にも現れます。特殊なループで悪性か良性が鑑別できます。元々のほくろは、がんになることはほとんどありませんが、急に黒いものが出て、短期的にしみたり、盛り上がったと早期検査が必要です。

最近高齢者に多いのは、紫外線の影響が長年蓄積され、顔面などでカサカサとした紅斑やかさぶたなどになる日光角化症です。この症状は前がん状態で、放置するとがん化する可能性があります。今はいいい薬があり、早期治療で良くなります。

——最後に

田所 大病院で難治性の疾患を診てきましたが、その疾患も早く治療すれば治せると思います。皮膚科・形成外科の専門医として、地域のかかりつけの皮膚科医を目指しています。